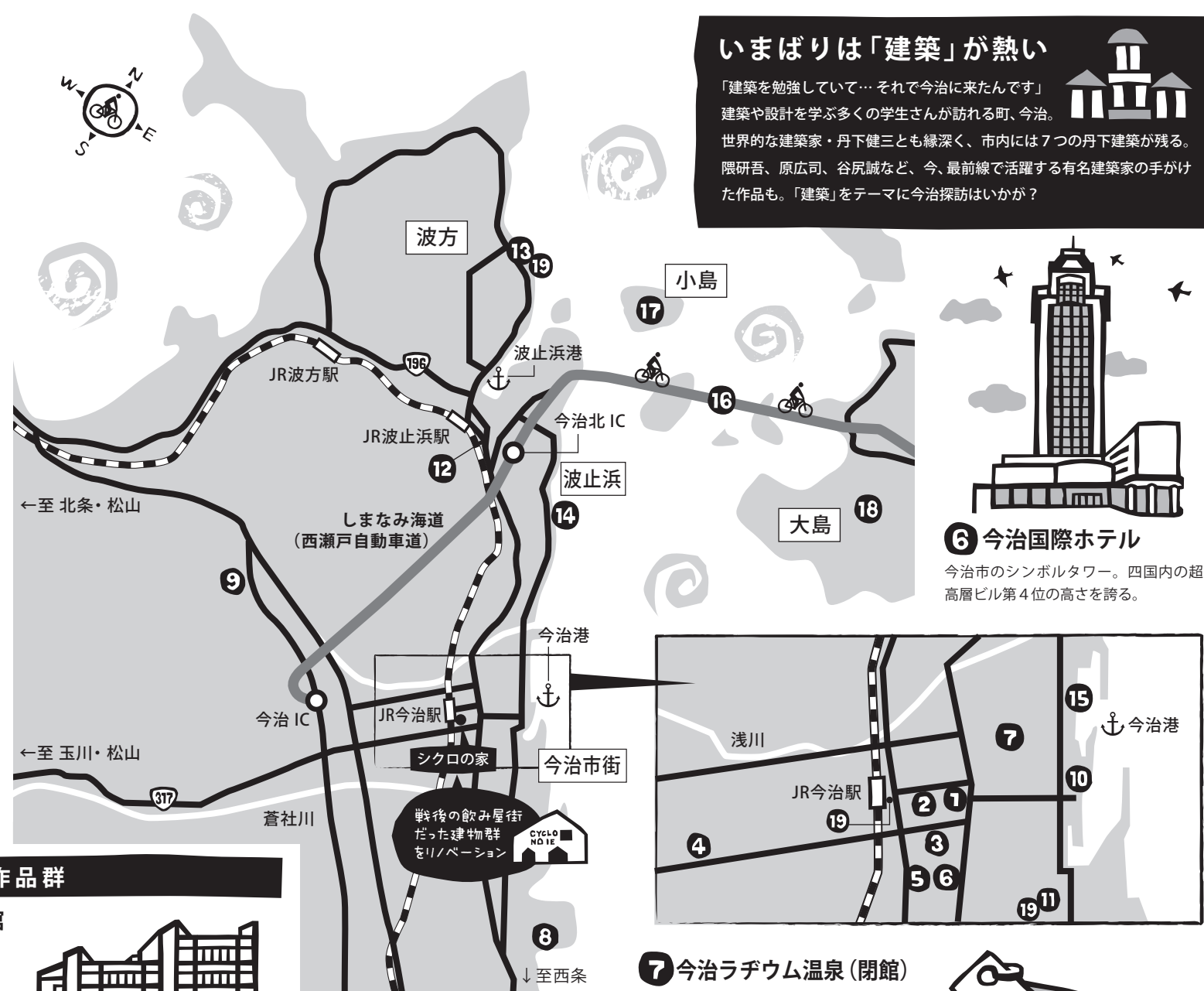


いまばり 世界 建築 マップ

だいが
ゆうめい
やけん

シクロツーリズム
しまなみ島

2018.08 www.cyclo-shimanami.com



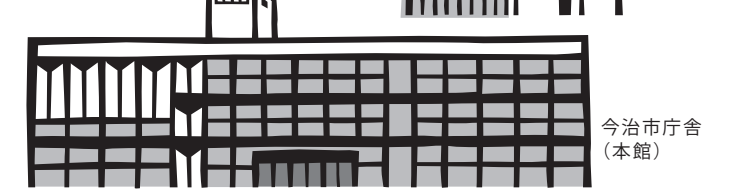
いまばりは「建築」が熱い

「建築を勉強していて…それで今治に来たんです」
建築や設計を学ぶ多くの学生さんが訪れる町、今治。
世界的な建築家・丹下健三とも縁深く、市内には7つの丹下建築が残る。
隈研吾、原広司、谷尻誠など、今、最前線で活躍する有名建築家の手がけた作品も。「建築」をテーマに今治探訪はいかが？

世界的建築家・丹下健三の作品群

1 今治市庁舎(本館)・今治市公会堂・今治市民会館

市庁舎と公会堂は昭和33年(1958)、市民会館は昭和40年(1965)竣工。都市設計も研究していた丹下らしく、この3棟はコの字型に配置されている。公会堂は斜めにギザギザとした側面が印象的。夜間はライトアップされる。市民会館は和を感じさせる大屋根とあみだくじ状のガラス窓が特徴的だ。いずれもル・コルビュゼ建築からの影響を感じさせる。



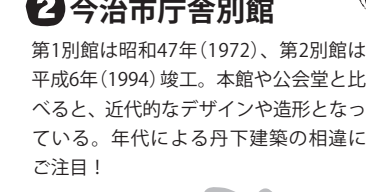
3 旧今治信用金庫本店 (現愛媛信用金庫今治支店)

昭和35年(1960)竣工。「雲(いらか)の波」に浮かぶ船をイメージして設計されたという。当時は、一面瓦屋根の家々の中にあって、ひと際目立つ建造物だったのであろう。



2 今治市庁舎別館

第1別館は昭和47年(1972)、第2別館は平成6年(1994)竣工。本館や公会堂と比べると、近代的なデザインや造形となっている。年代による丹下建築の相違にご注目！



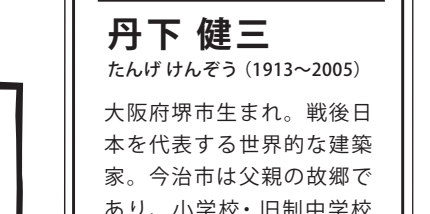
4 旧今治信用金庫常盤町支店 (現愛媛信用金庫常盤町支店)

昭和42年(1967)竣工。コンクリートの打ちっばなしの直方体の建物に、あみだくじ状のガラス窓枠。ほかの丹下建築と異なり、角丸の造形が使われている。枠が青色なのは、後に愛媛信金のイメージカラーで塗り替えられたため。



5 今治地域地場産業振興センター

昭和60年(1985)竣工。73歳となった丹下健三が基本設計を行った。中央にある円筒形のホールと両サイドの四角いビルの配置が特徴的。



丹下 健三
たんげけんぞう (1913~2005)
大阪府堺市生まれ。戦後日本を代表する世界的な建築家。今治市は父親の故郷であり、小学校・旧制中学校時代を過ごした縁もあって数多くの「丹下建築」が建てられた。おもな建築物に広島平和記念公園、香川県庁舎、代々木第一体育館、東京都庁舎など。



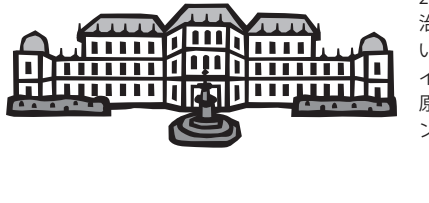
7 今治ラヂウム温泉(閉館)

町かどに突然現れる教会のような洋風モダンな建物は、昭和2年(1927)に建てられ、戦禍を免れて平成26年(2014)まで営業していた銭湯。三角屋根や六角ドームにレンガ積みの煙突など奇抜な外観に度肝を抜かれること必至。廃業前は1階が銭湯、2階がパレイ教室、3階はホテルだった。



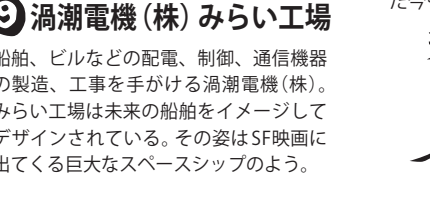
8 日本食研(株)KO 宮殿工場

調味料の製造販売を行っている日本食研ホールディングス(株)。本社工場はオーストリアのベルヴェデーレ宮殿をモチーフにして建築。実物の宮殿と瓜二つで内装ともに豪華絢爛。世界の食文化を広く伝える手段として宮殿型の工場を建設したといわれる。内部は見学ツアーも実施されている(要予約)。



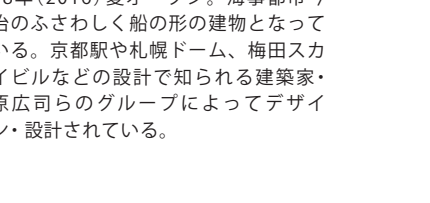
9 渦潮電機(株)みらい工場

船舶、ビルなどの配電、制御、通信機器の製造、工事を手がける渦潮電機(株)。みらい工場は未来の船舶をイメージしてデザインされている。その姿はSF映画に出てくる巨大なスペースシップのよう。



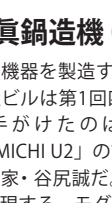
10 今治港みなと交流センター「はーばりー」

港町今治の新しい交流拠点として平成28年(2016)夏オープン。海事都市今治のふさわしく船の形の建物となっている。京都駅や札幌ドーム、梅田スカイビルなどの設計で知られる建築家・原広司らのグループによってデザイン・設計されている。



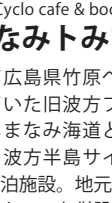
11 今治城

関ヶ原の戦いで名をあげた藤堂高虎が築いた海城。三重の堀に海水を引き入れた特異な構造で、国内最大級の港を備えていたという。今も堀には鯛やヒラメなどが泳いでいるので、目をこらして観察してみてください。



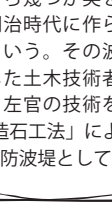
12 眞鍋造機(株)本社ビル

船舶用機器を製造する眞鍋造機(株)。その本社ビルは第1回四国建築賞大賞を受賞。手がけたのは尾道の複合施設「ONOMICHI U2」の設計でも知られる若手建築家・谷尻誠だ。平凡な風景の中に突如出現する、モダンでおしゃれなビルに驚かされること だろう。



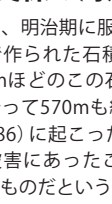
13 なみとみなと

かつて広島県竹原へと向かう船が行き来していた旧波方フェリー事務所を改装。しまなみ海道とはまかせ海道をつなぎ、波方半島サイクリングの拠点となる宿泊施設。地元食材を使ったカフェも併設。



14 大浜漁港地区 波止

海岸から幾つか突き出した防波堤の中に、明治時代に作られた波止が残っているという。その波止は、明治時代に活躍した土木技術者、服部長七によるもの。左官の技術を改良した独自の工法「人造石工法」により、100年以上たった今も防波堤として現役活躍中。



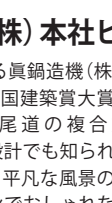
15 美保の海岸護岸

同じく、明治期に服部長七の「人造石工法」で作られた石積み護岸が残る。高さ1.5mほどのこの石積み護岸は、家並みに沿って570mも続いている。明治19年(1886)に起こった大暴風雨でこの一帯が被害にあったことを受けて、築造されたものだという。



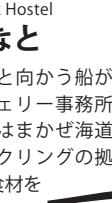
16 来島海峡大橋

大島側から来島海峡第一、二、三大橋と3つの橋が連なった世界初の3連吊り橋で、全長は約4km。



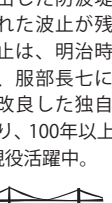
17 小島 芸予要塞

波止浜観光港からフェリーで約10分、来島海峡沖に浮かぶ小島に残る海岸要塞。日清戦争時代に、日露戦争を予感した大日本帝国が2年を費やしロシアの侵攻を防ぐために作られた。当時の砲台や赤煉瓦の兵舎、火薬庫などが残る貴重な近代遺産である。



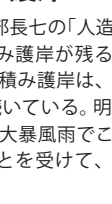
18 亀老山展望台

来島海峡大橋や多島島が一望でき、夕景のスポットとしても有名なしまなみ海道屈指の展望名所。新国立競技場の設計を手掛けた建築家・隈研吾による展望台なのだ。展望台自体が地面に埋まっているような構造で、自然景観を損なわない独創的なデザインが施されている。



19 6人のシクロ・ツーリスト

自転車のまち・今治を彩る「サイクルスタンド・デザインコンテスト(2012)」一駐輪部門で、最優秀賞受賞作品『6人のシクロ・ツーリスト』(作者/馬場俊一さん)。自転車に乗ったり、停めたりしている人の姿をモチーフにしたサイクルスタンドです。ポーズはすべて異なり、それぞれ風景にマッチした場所でサイクリストを出迎えている。ぜひ、この愛嬌たっぷりのサイクルスタンドを巡り、愛車とともに記念撮影してみてください！しまなみ海道の旅が盛り上がること間違いなしだ。



島内に3か所
陸地に3か所
設置されている。